

「アナログ歯科技工とデジタル歯科技工の融合 我々の目指すべき方向とは」

我々の日常生活においてもデジタル化は加速度的に進歩している。

たとえば、自動運転自動車は実用化され始め、人工知能をもった人間型ロボットは人間に代わる労働力として期待されている。

では歯科業界はどうであろう？「デジタルデンティストリー」という言葉をよく耳にするようになり、技工分野ではCAD/CAMシステムが普及し、3Dプリンターによる模型やプレート製作の精度が注目されている。

特にインプラント技工はいち早くデジタル技術が取り入れられ、今後多くの症例が口腔内スキャナーによるデジタル印象によって製作されていくこととなるだろう。

今、そして今後求められるのは従来のアナログ技工の中でも普遍的な技術と知識を活かしつつ、デジタル技術を柔軟に受けて入れていくことではないだろうか。

今回は私が開業してからの7年間でのパラダイムシフトを振り返り、これからの取り組むべき方向性についてインプラント症例を用いながら解説したい。